

FUZOKU TIMES

センター試験特集

体育祭・スポーツデー

2004年1月新聞部発行

あけましておめでとうございます。新聞部です。今年の新聞部の目標は二つ。

- 一 定期発行
- 二 コーナーの拡充

どうぞ今年も新聞部、そして

FUZOKU TIMES

をよろしく願います。

一月号の内容は例年センター試験特集とスポーツデー(去年までのクラスマッチ)です。さらに、今年度は二期の積み残しの関係上、体育祭のことも掲載されたスペシャルバージョンです。(といってもこれらは結果だけです)どうぞ、お楽しみください。では、早速まいりましょう。

センター試験対策

一月十七日と十八日、今年もセンター試験が行われました。三年生のほとんどが受験されたと思いますし、一、二年生も新聞や塾などでやった人がいると思います。

センター試験はもちろん今年が終わっています。センター試験の対策というよりも、その後の取り組み方についてです。今回は先輩方に、センター試験後の対策を中心としたアンケート答えをいただきました。たくさんの方からの回答を頂き本当に感謝しています。この場を借りて御礼申し上げます。なお、名前はアルファベットにしました。一、二年生も絶対無駄にはならないので、ぜひ一読してください。

質問内容

一 センター試験を終えて自己採点をした時、どう思いましたか？

二 出願校はどのようにして決めましたか？

三 二次試験までどんな勉強をしましたか？

四 模試の結果はどのように活用しましたか？

五 何を励みに勉強しましたか？

六 受験勉強中気をつけたことは何ですか？

七 後輩へのアドバイスをお願いします。

一 センター試験自己採点

A 二次試験の配点が高く、センターの得点自体も八割ぐらいで可もなく不可もな

くの点だったので
「ああ、こんなもんか」
という感じでした。

傾斜をかけると割と高い点数になったので、ちょっと嬉しかったです。

センターの得点では実際よくわからないので、自分の志望校の傾斜をかけてみるというかもです。

B 笑っていました。

英語が比較的簡単で国語が難しい年だったため、英語が苦手な国語で点を探ろうと意気込んでいた私にとっては有利なはずが、二教科とも冴えない点数の上、ガガガーンって感じになりました。そして少し泣きそうになりました。

けど、センター試験自体、すっごく楽しかったので、「この点数みんなに言ってみんなで笑ってやろう。」ってな感じでした。

C 大きな失敗はなくひと

安心でしたが、自分の狙う学部を考えると満足いく結果とは言えず、これからの身の振り方をどうしようか迷いました。センターが取れず落ち込んでいても点数が上がらないので、結果が悪くても堂々と受け止めることが大事だと思えます、開き直りましょう(結果がいいにこしたことはありませんが)。

D 当日、数学で失敗したことは気づいていたので、むしろ他の点数が良かったこと、他の人のほうがもっと数学で落ち込んでいたことで、自信がついた。

特に、私学をセンター選抜のみで決めるつもりだったので、例年どおりの合格点なら絶対大丈夫だと思い、更にリサーチでA判定が出たので(センタープレまでE判定だった)B日程への出願・別の私学のための三教科対策をしないことに決めた。(別の私大は、すぐに受験すらも

やめた)

また、国立もB判定だったので、心置きなく2次対策をした。

E 数学と地理が悪く、総合して目標点に届くぎりぎりでした。得意科目があつたのでなんとか持ちこたえたのだと思います。

F まずまず。大コケはしなかったが、悔やまれることは多々あつた。やはり自分が緊張していたことに気づいた。もつともつと得点できたのにとまって悔しかったが、大きなミスをしなかっただけマシだと思って切りかえようとした。

G 率直に言つと、まあこんなもんかな、と。自信のあつた教科は良い点だったし、自分でヤバイと思つてたのはやっぱりその程度しか取れてなかったたので。

H 手応え通りの教科と、手応え以上の点の教科しかなかったたので、正直安心した。そして何より、ここで緩んだら必ず落ちる人だということとを、一番に自分に言い聞かせた。

I 過去問をやつておいてよかった。

二. 出願校の決め方

A 夏に行ったオープンキャンパスで既に受験することを心に決めていたので出願校に迷いはありませんでした。

が、心配だったのでやっぱり神戸大の願書も取り寄せていました・・・。

なので、一応迷つてみたりもしましたがやっぱり最初から狙つていたところはずせなかつたですね。

センターリサーチも出してみても(親を安心させるた

め)、これなら勝負できるし受けてもいいでしょう?と。

B もちろん八割センターの結果で決めました。私のセンター結果で第一志望校に合格する確率は一割で、そこを受験するか、A判定出ている地方の大学を受けるか悩みました。

あとの二割は担任の先生をはじめ、両親とかに相談たりして、最終的には風水で未来の方向を調べて地方の大学の方向が吉だったので、地方の大学を受けることになりました。

不安と緊張と期待と安心という矛盾だらけの心境でしたが、どこの大学行っても頑張ろう!! って思いました。

C パソコンでいろいろなサイトにアクセスして、センターの判定を見まくって、それを重視して決めました。
A・Bがでていないと受ける

のが怖い、Cでも受けよう、といった気持ちは人それぞれです。一番大事なのは大学に受かって落ちても後悔しないことです。どうなったら自分が後悔することになるのかは自分がいちばんよく知っているはず。

D 私学は、もともとの志望校。
国立は私学より難しい学校を狙おうと思ひ、

更にオープンキャンパスなどで気に入った所にした。また、併願私大はレベルが同じぐらいの所で選んだが、夏休みに実際に行つた所、あまり気に入らなかつたので、受けるだけにするつもりだつた。

E 国公立というのはきまつていました。いつてみたい学科の資料を集めて考え、最後に成績で絞りました。第一志望は十二月に一つにきまつりました。

F ずっと第一希望にしていたところがAかB判定だったし、他の学校のことはいあまり考えていなかったの今の学校に願した。学部は迷つたけど、やっぱり自分のしたいことに一番近い学部にしよつと決めた。受からないかもと思つたけれど、一回きりの挑戦ならやつてみようと思つた。早く出願して八つを決めればよかつた。

G 特にセンターの結果に左右されることもなく、元々自分が第一希望にしていたところになりました。センターより二次重視な学校なせいもあるかもしれませんが、もつと低い点しか(センターで)取れてなくても変えなかつたと思ひます。

H 自分がずつと行きたかつた大学だつたのが理由。レベルを落とそうとも上げようとも考えなかつた。

I 自分の好きなこと、ずつとしたいことを考えた。

三・二次試験までの勉強

とにかく書かせる大学だつたので過去問をつぶしていきました。

わからないところはそのつど先生に聞きました。

日本史と国語は先生に添削してもらつていました。

英語は百語程度の自由英作文があつたので文法の間違いや内容のまずさなど先生に指摘してもらつて書き直す作業を繰り返しました。

数学はとにかく苦手で、問題に立ち向かうことが苦痛ですらあつた私には先生とのトークが癒しでした(笑)。

B 私の場合、受けたい学科が法学科で、二次試験が小論文だつたので、その時の時事問題を調べたり、先生に小論

の添削をお願いして取り組んでいました。

文章を書くのは好きなので、毎日楽しく勉強していました。時々、どういう小論が高得点の採れるものなのか分からなくなつて悩んだりもしましたが、ほんと、先生に色々相談したりして解消しました。歴代の大学入試に出された小論の赤本のようなものも役に立ちましたよ。

C センターが終わつて、私が出願を決めた大学は論文が課せられていたので、それまで全くしていなかった論文対策を始めました。論文は、自分だけの勉強は正直難しいです。論文の添削は予備校や塾の先生ではなかなかじっくり見てもらえない一方、学校の先生なら一対一で丁寧に教えて貰えるので、こちらを活用しましょう(先生方すいません)。

D まずセンター後、私大の

面接があつたのでそちらに集中した。

その後は二次対策として世界史・日本史の再復習をした。また、英語が弱点であることがわかつていたので、単語帳のやり直しをした。

E センターと小論文の試験だったので過去に出題された小論文をかって先生にみていただきました。小論文の書き方の本を買つて読むと安心しました。

F 過去問(赤本)と通信教育の添削を交互にしていた。とにかく解いて、志望校の出題形式や傾向に慣れようとした。一週間前頃からは、やる事がなくなつた状態だったので新しいことに出してショックを受けてはいけないと思い三回目に取くんたり教科書など基本のものを見直したりしていた。

G ひたすら過去問をやりました。ひたすらと言っても量的には五年分をやるだけで精一杯でしたが、苦手な数だけは何回か繰り返し解いた気がしなくもないです。

H 自分が特に苦手だった英文(自由英文も含んで)じっくりやった。基礎作りをやつたという自信があると、やはり違う。

I 外国語大学だったので、とりあえず英文を読んだり、英作文をしたりした。

四・模試の結果の活用

A 活用してないので何とも言えません。

自分の苦手な点に関してはよくわかつていたので・・・。

ただ、模試の結果を見ていてわかつたのは、AとEの判

定は特に気にする必要はない、ということですよ。

B 私の場合、模試はシヤレでした。いや、むしろシヤレにならない感じだったかもしれません。ネタですね。(笑)

「よかつた! 本番じゃなくつて!」

つて自己暗示してた気がします。判定とかは気にせず、自分はどんだけがんばらなあかんねやろってヤル気になつていました。

C 各大学の判定も大事ですが、センターで出願候補に絞つた大学の二次の配点や難易度と、自分の得意/不得意科目を照らしあわせる時に最近の模試の結果を見たりしました。

D センターについての判定は、信用しなかつた。

まず、自分が秋までは真剣にセンター対策などしていな

かつたし、また一日で全ての試験を狭い部屋でするといふ状況では、実力を出すよりも先に体がばてていることが多かった。ただ、数学など六十分の教科での集中の必要性はよくわかつたし、また例年同様の問題が出ることから、復習はきちんとやつた。

復習すれば、次回からその成果がわかるのでやりがいもあつた。

国立の、特に特定大むけの試験は、時間、問題、雰囲気も本番同様なので、非常に良かった。

ただし、センター対応と異なり、同じ傾向の問題が出る可能性が極めて低いので、復習はしたものの、あまり活用できなかったと思う。

E 模試のために勉強をしなかつたのでDかEばかりでした。プレッシャーはなくなりません。

F 模試は雰囲気を知るため、今の学力を知るために受けた。結果は気になつて当たり前、でもできるだけ前向きにとらえるようにした。(できない所があつたら、ここを完璧にすればもっと点が伸びる、ミスをしたら本番ではなくてよかつたとか)センター前、二時試験前にこれまでの模試をもういちどといて復習した。

G 最初からそんなに悪い結果ではなかつたので、励みになりました。その点で自分に自信は持てたのですが、一方でどんどん順位が下がつていくのを見て、油断してたらあかん、と自分を戒めることにもなつたと思います。客観的に判断できたというか。

H 「まだこれだけ伸びる」と自分への興奮材料にしたことと、自分の苦手分野を明確にするために使つた。何回もやると、いつも自分が点を

落としているところが分かる。

五・勉強の励み

A 彼氏が東京に住んでいたから。受かつたら遠距離から解放! と思つたので。

あとは楽しいキャンパスライフを夢見てほげほげ勉強していました。

こういうときは想像力がものを言うんだなと思ひました。

B やつぱり私ははやく自分のやりたいことを思う存分したいと思つていたので、夢をほんまにいろんな友達と語り合つたことが励みになりました。不安とかいっぱい出てくるけど、それはみんな同じやし、いっぱい語つて答え出していきました。

C 大学いったら楽しいんだろうなあと、これを

励みにしました。

D 大学生として、好きな勉強を集中ができるということ。

実際、自分の知りたいこと・身につけたいことが自由に選択できる。

E 1日1時間の息抜きとハムスター!

F 大学入学後の生活を夢見た。好きな勉強ができる、本が読める、ライブに行ける、旅行ができるなど自分を励ました。つらいのは自分一人ではないということ。

G やつぱり一番は、合格したときの自分を想像して(笑)。ただ自分の知識が増えていくのが単に嬉しかったりもしました。1、2年の頃はほとんど勉強してなかつたので、自分が今勉強してるんだ...っていう自己陶醉もアリです。

H 自分の好きなことを主に勉強できる環境につけるのが一番、と思ってやった。あと、周りにすごい奴がいるというのも大きかった。

I 自分のなりたいたいものになろうと考えた。

六 受験中に気をつけたこと

A ・とにかく体調を崩さない。

風邪なんか絶対に引いたり駄目です。

もし風邪引いてもすぐ治せるように。

・睡眠時間をたっぷりとる。高二の頃よりよく寝てましたとも。

・できるだけ朝型生活に。実際難しいですが、「できるだけ」やってみるといいと思います。

B ストレスをためない！

！

私はほんまにありえへんくらい楽しく受験できました。

学校の行事は楽しまな損つてなくらい騒いだし、授業も笑いまくってました。

C 友達と話しこまないこと！

D ・風邪を引かないこと。

・気分が落ち込まないようにすること。

前者には、インフルエンザの予防注射を念のため受け、毎日イソジンでうがいをし、睡眠時間を必ず一定に保つようにした。

後者には、勉強しなければならぬときでも、ノートをみると気分が暗くなったりすれば、勉強しないことにしていた。

自分ではやらなければならぬとわかっているのに、そのうち、無性に勉強したくなり、テンションがあがるの

で、そのほうがずっとはかどった。

E 他人の勉強をききな

F 体調管理…必ず帰った

ら手洗いやうがいをするようにした。これは効果があつたと思う。面倒くさがらず習慣にするべき。マイペースで

すること。自分方法を信じる

こと。ふらふら不安になるくらいならとりあえず一つの

方法を信じて進んだほうが良いと思う。

G 風邪を引かないように

でしようか？でもこれはど

ちらかというと私よりも母

親です。あとは、周りの空気に押しつぶされないうちに、

できるだけ常にプラス思考

H 体調管理…これに限ります。特に冬は水分補給不足

になりやすいので、喉をやられやすい。一度の風邪が致命傷になりうるので、風邪を引きかけたらよく食べてよく暖まって早く寝ることです。

I とにかく、風邪を引かないようにした。

七 後輩へのアドバイス

A よく寝てよく食べてよく勉強すればおのずと良い結果は見えると思います。

極端な話、勉強だけしてればいい時期なので逆に「楽」だと思つたほうがいいです。

テストとレポートの恐怖に慄きつつも遊び呆けてバイトもする日々はもうすぐ

ですよ！がんばって！

B 大学受験って何のためにするんやろーって考えたところで、素敵な答えなんて浮かばへんし、受験に合格したか不合格したかで人生の

成功とか失敗が決まるわけ
ないって私は思います。その
人生の成功とか失敗は他人
には決められへんし、自分が
決めるもんやし、それやった
らとりあえず頑張ってみる
だけ頑張ってみたら、後悔す
ることないし気持ちええも
んやと思います。私は今、大
学で学んでいることに関係
した仕事に就くかっていう
と分からへんし、自分の興味
のあることなんかいっぱい
あるし、やりたいこととか山
ほどあるし、これからいっぱ
い経験していつて決めてい
くつもりです。大学で学べる
ことはたくさんあるし、いろ
んな人との出会いも多いで
す。けど実際、肝心なのは自
分自身の行動力やし、今って
いう時間を大切にしていっ
たらかつこいいと思います。
そしたら自分自身素敵やし、
結果もついてくるとしていま
す。実際、今やらなあかんこ
ととか、今やりたいことを実
行すんのが一番難しいけど

一番重要やと思います。
「すごい」か「すごい」か
なんて「やった」か「やって
へん」かの差だけやと思うし、
自分を信じてやるだけやっ
てみてください。あたしの場
合、受験に成功しようが失敗
しようが、あたしはあたしや
ん！！ っていうのが、受験
の不安解消になったし楽し
く取り組めたと思います。
私は島根大っていうランク
的には全然たいしたことな
いし、附校生初の大学やし、
島根とか印象薄いけど、わた
しは島根にいったことはほ
んまによかったって今の時
点で思うし、これからもっと
もっと良かったって思うよ
うにしていかなってしていま
す。

んかわけ分からん文章やけ
ど、ごめんなさいね。
C とにかくセンターの結
果がどうあれおちこみすぎ
ないことです、おちこんで何
もしない事は無駄なことデ
す。あと、出願校はセンター
の自己採点が終わったらじ
つくり三日ほど考えて決
めましょう、長く考えれば考
えるほど二次に向けての勉
強の開始が遅くなります。セ
ンター ぼけしている自分の
頭を二次型に戻す時間も必
要なので。
D 私は、ももとの第一志
望である現在の私大に通っ
て非常に楽しく過ごしてい
ます。

やりなおすのはめんどくさ
いです。授業をちゃんとうけ
るほうが楽です。
F 一つ一つの課題を丁寧
にこなしていくことが大切
だと思う。毎日コンスタント
に勉強して積み上げていつ
て欲しいです。友人、家族と
の会話などを生き抜きに乘
り切りましょう。
G 私の経験・感想は上のよ
うな感じですが、もうすでに
自分のスタイルができてい
る人はあまり惑わされずに
それを貫いたほうが良いと
思います。よっぽど不安定で
なければ、自分で決めたのが
一番だと思うので。一・二年
生の人は、三年になってから
でも結果的に私はギリギリ
何とか耐えましたが、苦手科
目は何とかなる程度にまで
克服しておいたほうが得策
です。あとは、ラストスパー
トと自己暗示で乗り切りま
しょう。あまり自分を追い詰

私はほんまに高校大好き
やっだし、素敵な先生とか友
達に出会えて幸せやと思っ
てます。そんなも自分の自
信につながったと思います。
並々の人生をミラクルにす
んのは自分やと思います。な

E 睡眠はけずらない。一・
二年生の方へ。学校でやった
ことをあとから一人で、塾で

めずに、頑張ってください。

H 合格して思うのは、周りにいる先生、友達、家族がいなければ絶対に通らなかつたな、ということ。周囲の人たちへの感謝を忘れないこと。そしてもう一つは、来年でもいいかな、と考えないこと。僕もその言葉を肯定したけれど、今共に過ごす人達と出会えなかつたかもと思うと、本当に合格して良かったと思う。今出来ることを全てやった上で、受験に臨んで欲しいと思います。

I 自分が後で後悔しないように、好きなことができるように、今は少しがんばってください。

体育祭・スポーツデー

はるか昔なので少しだけになります。

体育祭は前期生徒会にとつての最後の行事です。当日

は天気にも恵まれてすばらしい大会になりました。迫力に満ちた騎馬戦やさまざまドラマを生んだりレー、悪戦苦闘しながらの障害物競争、先生も参加された色別対抗リレーなど、本当にたくさん熱戦が繰り広げられました。スポーツデーは各クラスの意地と意地がぶつかり合いました。それぞれ印象に残った試合があると思います。

編集後記

一月十七日(土)・十八日(日)と、三年生の皆さん、センター試験、お疲れ様でした。一年生でも、塾などで体験受験をされた方もおられることかと思えます。

結果、またその過程など、いろいろと思われることでしょう。しかし、無神経なことをいうようですが、ベストを尽くして欲しい、そう思います。健康管理にも気をつけて、のりきってください。

そして、一・二年生。来年、再来年は、私たちの番です。新教育課程、受験科目の増加など、はた迷惑気が抜けません。うわぁ。

先日、十九歳・二十歳という異例の若さでの芥川賞受賞が騒がれましたね。また『蛇にピアス』は読んでいないのでなんとも言えませんが(早く読まな・・・)、綿矢りさんの『蹴りたい背中』、素晴らしい作品だと思います。

「さびしさは鳴る」という、独特の表現でもって始まるこのストーリー、ひどく個人的な意見になりますが、何が凄いつて、描写力が軒並み外れているんですよ(多分)。

主観・客観を交えた表現、それ自体は珍しくもありません。しかし、人間の内面的なモノを浮き彫りにして、それでもって世界と絡み合わせ、その邂逅点を丁寧にすくい上げている そんなイ

メージを受けました。

処女作、『インストール』にしてもそうです。風俗の世界に首を突っ込んだ女子高校生を、その過激さからつい薄っぺらな表現になつてしまふのかと思いきや、どろどろとしているながらも決してあっさりとした感を失わずに、描いています。

官能小説とは違う、しかしレールを外れない適度な刺激が、倦怠感を抱かせない味を出しているように思います。

全体的な句読点の少なさも手伝つて、スピード感をもつて読みまることが出来ます。

つて、素人がぐだぐだと書くのもあれなんで(どれや!?)、この辺で。

それにしても、ピアノやフイギュアスケート、文壇に芸能と、最近の十代はすごいで

それではっ。